

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
【部門区分】第 6 部門第 3 区分  
【発行日】平成 17 年 12 月 2 日 (2005.12.2)

【公開番号】特開 2003-228552 (P2003-228552A)  
【公開日】平成 15 年 8 月 15 日 (2003.8.15)  
【出願番号】特願 2002-304068 (P2002-304068)  
【国際特許分類第 7 版】  
G 0 6 F 15/00  
【F I】  
G 0 6 F 15/00 3 3 0 A

【手続補正書】  
【提出日】平成 17 年 10 月 18 日 (2005.10.18)  
【手続補正 1】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】特許請求の範囲  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【特許請求の範囲】

【請求項 1】 モバイル通信ネットワークにおいて動作可能なモバイル機器であって

、  
中央演算処理装置による検索および実行のためにマシン読み取り可能フォーマットでデータを格納するメモリモジュールと、

該メモリモジュールに格納される不正侵入検出アプリケーションを実行するように動作可能なオペレーティングシステムと、を備えるモバイル機器。

【請求項 2】 前記オペレーティングシステムは、プロトコルドライバと、媒体アクセス制御ドライバと、を備えるネットワークスタックをさらに備え、前記不正侵入検出アプリケーションは、前記プロトコルドライバと前記媒体アクセス制御ドライバとに結び付けられた中間ドライバを備える、請求項 1 記載のモバイル機器。

【請求項 3】 前記不正侵入検出アプリケーションは、結合プロセスエンジンと、入出力制御レイヤと、をさらに備え、前記入出力制御レイヤは、シグネチャファイルを受信し、該シグネチャファイルを前記結合プロセスエンジンに渡すように動作可能であり、前記結合プロセスエンジンは、前記シグネチャファイルを使用してデータパケットを解析するように動作可能である、請求項 1 または 2 記載のモバイル機器。

【請求項 4】 格納媒体をさらに備え、該格納媒体は、複数のシグネチャファイルのデータベースを維持するように動作可能である、請求項 1 ないし 3 のいずれか一項記載のモバイル機器。

【請求項 5】 前記不正侵入検出アプリケーションは、前記シグネチャファイルとデータパケットの間の対応を識別し、該対応が識別されると、前記データパケットが不正侵入に関連するものであるという判断が行われる、請求項 3 または 4 記載のモバイル機器。

【請求項 6】 前記シグネチャファイルは、前記データパケットが不正侵入に関連するものであると決定されると、前記プロセッサが実行すべきプロセスを定義する指示を含む、請求項 3 ないし 5 のいずれか一項記載のモバイル機器。

【請求項 7】 前記不正侵入検出アプリケーションは、前記モバイル機器の不正侵入に関連するイベントを識別するように動作可能であり、前記モバイル機器は、不正侵入に関連するイベントデータを前記ネットワークの管理ノードに提供するように動作可能である、請求項 1 ないし 6 のいずれか一項記載のモバイル機器。

【請求項 8】 前記管理ノードは、モバイル通信ネットワーク交換システムである、請求項 7 記載のモバイル機器。

【請求項 9】 不正侵入検出システムを管理するネットワークのノードであって、中央演算処理装置による検索および実行のためにマシン読み取り可能フォーマットでデータを格納するメモリモジュールと、

プロトコルドライバおよび媒体アクセス制御ドライバを備えるネットワークスタックを備え、不正侵入保護システム管理アプリケーションを実行するように動作可能なオペレーティングシステムと、を備え、前記管理アプリケーションは、ネットワーク攻略ルールを定義するテキストファイル入力を受信し、前記テキストファイル入力を、攻略シグネチャを表すマシン読み取り可能ロジックを含むシグネチャファイルに変換するように動作可能であり、前記ノードは、無線周波数リンクを介して前記シグネチャファイルをモバイル機器に伝送するように動作可能である、ノード。

【請求項 10】 前記無線周波数リンクは、モバイル機器およびモバイル通信ネットワークの送受信基地局で終端する、請求項 9 記載のノード。